

## 感動旅の葉-5（ローデンブルク 編）

鈴木隆司 記

”成田発 感動の旅-ing” と題してブログをアップしてきた。その中から、印象的だった写真を旅の葉として綴ります。

### 今回の紹介： ローデンブルク編

ドイツ ローデンブルク市紹介：

13世紀に神聖ローマ帝国直属自由都市に認可され発展。15世紀頃まで城壁の増築拡大が行なわれ2万人もの住民が住む大都市になり、ドイツの中世紀においては重要な城塞都市であった。

だが、宗教戦争時にプロテスタント側についたローデンブルクはカトリック軍により侵略され、政治的にも経済的にもその価値を失墜。その後も侵略を受け小国になり経済流通から遠ざかり、近代になっても幹線鉄道路網から外れたままで、孤立化された様な都市であった。

しかし現代になって、この街を訪れた旅行者がその美しさに驚き報道するや、一気に有名な観光地になった。それは正に、埋もれていた中世の宝石箱が見つかったかの様だといわれている。

城壁の小さな門を抜けた途端、目の前に中世時代にタイムスリップしたかの様な街が広がった。







額縁に織り込まれたカラフルな絵の様に佇む街の風景は、気分を高揚させて止まない



建物の壁に鮮やかに配された、その木組み建築様式は美しく、安らぎをも醸し出している





狭い石畳の道路沿いに立ち並ぶ建物は、カラフルな壁と、窓辺に飾られた鮮やかな花で彩られている





カラフルな壁の色と、荒いデジタルカメラで撮った様なゴツゴツした屋根の造りが興味深い



夕陽に照らされて、街が平和なお伽の国の様に浮んだ





花で飾られた平和そのものの街だが、見上げるとそこには過去の歴史を物語る深い現実も残っていた！  
門の上に不気味な仮面が取り付いていた。その目は、侵入者を狙う銃眼だった

